第 11 回　長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

日　時	令和８年９月 10 日（木）17 時 30 分～19 時		
場　所	篠ノ井交流センター　多目的ホール		
出　席 **（敬称略** **◎座長）**	小川　修一　蟹澤　友司　塚田　常昭　福田　享士　矢島　隆生　滝沢　秀治 ◎藤本　光世　百瀬　秀樹　海野　忠一　香山　篤美　赤地　憲一　越　正至 細川　隆男　赤塩　曜子　吉池　隆一　竹内あづみ　栗林　宏至　梶浦麻依子 祢津　賢司　竹腰　益臣　大石　卓司　垂澤　和憲　花岡　拓海　阿部　栄智 中澤　涼子　畔上　真緒　竹内　宏枝　塚田　幸菜　星野　裕之　小山　槍駕 中村　姫菜　峯村　友萌　（以上 31 名）		
欠　席 **（敬称略）**	川上　忍　丸山　陽一　近藤　和紀 森下　孟　宮嵜　歩　髙木二千翔 （以上６名）	**傍聴者**	14 名（オンライン参加３名） 報道関係５社
事務局	更級農業高校　２名　丸山教頭　髙木教諭		
	松代高校　３名　山口教頭　宮林教諭　中澤教諭		
	屋代南高校　３名　犬飼教頭　星野教諭　土屋教諭		
	高校再編推進室　５名　井出室長　田中主幹指導主事　宮嶋主任指導主事 竹前主任指導主事　米澤主事		
	学びの改革支援課　１名　山﨑指導主事		
当日資料	第 11 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会　資料		

会議事項

（１）「第 10 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」まとめ

（２）長野千曲総合技術新校　学びのイメージ　意見交換

主な内容（〇事務局説明　・発言概要　→事務局回答）

＜会議事項＞

（１）「第 10 回長野千曲総合技術新校再編実施計画懇話会」まとめ

【質問・意見】

・「学びのイメージ」にある「深める・つながる・ひろがる」の部分が、資料中の「専門学科の学び」の説明で納得いった。「共通する教科の発展的な科目」は、例えば、進学希望者に対応する授業を設置するなど、具体的な表記があってもよいのではないか。

※今後のまとめについて、事務局が案を構成員に示し、了承を得たうえでホームページに掲載することを提案し、了承された。

（２）長野千曲総合技術新校　学びのイメージ　意見交換

①「学びのイメージ」策定スケジュール

〇これまでの「学びのイメージ」の進捗状況について確認。

【質問・意見】　なし

②「専門学科」や「総合技術高校」の学び

〇専門学科の教育課程について、専門学科の主要な学びの部分や、総合技術高校として特色ある授業を設置しうる部分について説明。

【質問・意見】

・総合技術新校として特色ある学科間融合の学びを目指すには、総合的な探究の時間など「特色ある学びの展開が可能な部分」を作り込むことで学校の独自性が発揮されると考えてよいか。

→概ねその通りであり、実際に設置する具体的な授業は今後検討していく。

・１年間で 30 単位修得と、全学科共通教科・科目が約 40 単位や専門学科の教科・科目で 25 単位以上などの数字がどのように結びついているのか。年間ではどのような単位の合計になるのか。

→３年間の合計が 90 単位となっている。示した内訳は３年間での内訳であり、各学年で展開される授業は、概ね１年生では全学科共通の授業の割合が多く、上級生になるにしたがって専門性を深める授業やそれぞれのニーズに応じた選択科目などの割合が多くなり、学校ごとに特色がある。

③新校の学びに関する意見のまとめ

〇過去の懇話会および産業界・地域選出の構成員を訪問した際に出された「新校の学び」についての意見を分類・整理した資料について説明。

【質問・意見】　なし

④「学びのイメージ」意見交換（グループワーク）

○新校の柱となる学び「A：課題解決型の学びの充実」「B：産業や地域との連携授業」「C：すべての学科共通したデジタル教育」のそれぞれについて、グループごとに意見交換し、まとめ発表。

[A グループ]

＊A について

・地域で働く人との交流や地域の歴史学習、生産・加工体験など、実体験を重視した学び。
・地域資源や地域の特色を生かした探究活動の充実。
・農業分野とファッション分野を組み合わせるなど、分野横断的な学びの展開。
・課題解決の過程で、トライアンドエラーを繰り返しながら学べる環境づくり。

＊B について

・高校生のアイデアを商品化につなげる取組。
・地域内だけでなく、県内都市部や県外での見学、コンテスト参加等を通じて学びを深め、その成果を地域へ還元する。
・起業家など実社会で活躍する人から学ぶ機会の充実。
・報酬を伴うインターンシップなど、実践的な就業体験の導入。

＊C について

・AI の適切な活用方法やプロンプト入力、活用上の留意点などを学ぶ。
・自動制御等の先端技術を体験できる学習環境の整備。
・学校と企業が連携し、企業で活用されているソフトウェアやデジタル技術を学校での学びに取り入れる仕組みづくり。

[B グループ]

＊A について

・地域特産品（小森ナス等）を題材とし、地域の魅力や課題を探究する学び。
・生徒自身が地域の特色や活用方法を発見する主体的な学び。
・子どもから高齢者、外国人など、多様な人々との交流を通じて幅広い価値観に触れる機会づくり。
・探究活動を深めるためには、「地域活性化」などの共通の目標設定が必要。

＊B について

・地域や産業界との連携を強化し、実践的な学びの充実を図る。
・短期間ではなく、長期間や継続型のインターンシップ。
・体験と振り返りを繰り返す学習サイクルの構築。
・生徒と企業・地域をつなぐコーディネート機能の整備。
・地域や産業との関わりを通じて、社会貢献意識を持った人材を育成。

＊C について

・ホームページやオンライン交流などを活用し、情報発信力の向上を図る。
・AI やデジタル技術の活用を進める一方で、対面での交流や自分の言葉で伝える力も大切にすべき。
・海外との交流機会を通じて、国際的な視野も育む。
・起業家精神や、失敗を恐れず挑戦する姿勢の育成。
・二次元コード等のデジタル技術を活用した情報発信方法の研究や実践。

[C グループ]

＊A について

・地域課題を考えるためには、まず地域の歴史・文化・産業・観光資源等を知ることが重要。例として、棚田、あんず、防災など地域の特色や課題を題材とした探究活動を、学科横断的な学びにつなげる。

＊B について

・企業や地域団体との連携だけでなく小中学校との連携も重要であり、高校生が小中学生へ学習成果や地域の魅力を伝えることで、学びの深まりや相互理解につなげる。
・デジタル分野で学んだ知識や技術を高齢者支援に活用するなど、世代間交流の充実。

＊C について

・AI やドローンなどのデジタル技術を活用した学習の充実。
・地域学習や探究活動の成果を SNS 等で発信し、長野県の魅力発信につなげる。
・地域について学んだ内容を地域検定のような形にしていく。

[D グループ]

＊A について

・学科横断的に「作る」「加工する」「売る」までの一連の流れを学べるところを新校の強みに。

＊B について

・企業の歴史や理念、仕事への思いなどに触れられるような、企業と連携した学びの充実。
・地域や企業と連携した長期型のインターンシップの導入や、課題解決型学習を日常的に実践できるようなカリキュラムづくり。

・多様な職業人や地域人材との交流機会を増やし、多角的な視点を養う学びの充実。

＊C について

・情報モラルやネットリテラシー、デジタル社会における倫理観を身に付ける学びも重視すべき。

[E グループ]

＊A について

・地域資源を活用した商品化・ブランド化などを目指した探究活動。

・上山田温泉、千曲川の防災、大本営跡を活用した平和教育、稲荷山地区や篠ノ井地区の活性化など、地域の特色を生かした学びの実践。

・企業だけでなく、市町村等の行政機関との連携。

＊B について

・地域イベントや祭り、環境整備活動など、多様な地域活動に生徒が参画できる仕組みづくり。

・清泉大学や観光地などの地域資源との連携。

・外部講師の積極的な活用による、多様な視点や経験に触れる機会の充実。

＊C について

・SNS や AI を活用し、企業などの実社会に近い実践的な学びの充実。

・技術の活用だけでなく、人権教育や道徳教育など、人間性を育み生徒一人ひとりを支える視点を大切にした教育も重要。

[F グループ]

＊A について

・地域の歴史や特色を学ぶとともに、起業家や消費者など多様な立場から地域課題を捉える視点を学び、やはり高校生ならではの発想や視点を生かした課題解決型学習になることが大事。

＊B について

・経営者や企業関係者から話を聞き学ぶ機会の充実にとどまらず、生徒による取材や体験活動もできるような実践的な学び。

・生徒と企業双方にメリットのある継続的な連携体制の構築が望ましい。

＊C について

・AI 活用に伴うリスクやマナーについて学び、適切に判断・活用する力の育成が必要。

・メタバースなどのデジタル技術を活用した、新たな意見交換や情報収集方法の導入。

・農業分野等において、映像技術などを活用して作業効率化や課題解決方法を見出すような学び。

○出された意見を参考に、次回懇話会で新校の柱となる学びをより明確化した「学びのイメージ」を提示する。今後「学びのイメージ」完成に併せて校地選定や開校年度等についての検討を進めていく。

◎座長より

・構成員は、懇話会での議論の内容をそれぞれの選出母体に持ち帰り、情報共有や話し合いをお願いしたい。また、その様子を懇話会で報告してもらいたい。

（3）その他

○次回懇話会　開催日未定